

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名:「アルスとレノが終わるまで」

テーマ:「魔王の娘なのに、その跡を継ぎたくない美少女」

キャラクター

55

ストーリー

50

テーマ(設定)

50

文章力

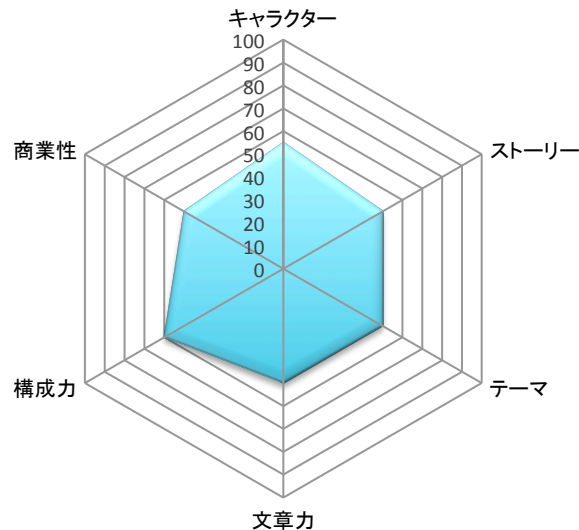
50

構成力

60

商業性

50



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- 物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- 意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものが無い

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

「しかし逃げてきてしまった以上、今さら戻ることも許されない。道路は既に無いのだ。選択は他に無かった。」一同 故過去の記憶を捨ててまで人間にならなければいけないのだらうという印象。「今の記憶を消すなんておかしな人間になっちゃった方がこの先楽に生きられるかもしれないが、やっぱり俺たちは今の姿のまま生きていく。そうすればいつまでも愛い合えるから」的な選択はないのか。どうしてもストーリー上記憶を消してまで人間にさせたのなら、魔物のままだと3日以内に死んでしまう等の設定を無理矢理にでも作って、「記憶は消えるが死なない為にはそれしかないんだ」的な流れにするくらいのごしつけが必要。ここの設定がしっかり成されていれば得点は今より遥かに高かった。

ラストシーンの「ごわごわしている」というキーワードが、ベタではあるがラストを飾る面白い台詞として活かされている。+2

総評
 ゲルドラがああも簡単に逃亡を許してしまう点については、かなり極端に賛否両論が分かれると思われる。しかし密に障害はつきものである以上、ゲルドラは最後まで密の障害となる立場に置いておくべきだったかもしれない。少なくとも、あのシーンで突然良い人になり「幸せになっただけさ!」は拍子抜けであると思われる。例えば「本当にレノを連れて逃げたいなら私を倒してから逃げ。私くさい顔せないようであればこの先お前はレノを守りきれないリーからの戦闘シーンや、もしくは(ここでレノを連れて逃げたら、多くの国家がお前を敵と見なし命を狙いに来るだろう。それでもレノを連れて逃げたいか)的な足止めのセリフを吐いてから逃亡を見送す程度にしておいた方が、ゲルドラというキャラクターの一貫性は守られる。ストーリー自体は王道ファンタジー。ベタではあるが、姫を連れ逃亡劇という確固たるおもしろさがあった。

合計加点ポイント 0

総得点: 315 / 600

B方式総合得点: 16538 点